



## 2021年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月14日

上場会社名 ネオス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3627 URL http://www.neoscorp.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 昌史  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 藤代 哲 TEL (03)5209-1590  
 四半期報告書提出予定日 2020年7月14日 配当支払開始 ー  
 予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万未満切捨て)

### 1. 2021年2月期第1四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第1四半期	1,815	△11.9	63	△49.2	31	△76.2	34	△67.9
2020年2月期第1四半期	2,061	16.4	124	12.9	130	27.5	106	△15.7

(注) 包括利益 2021年2月期第1四半期 371百万円 (307.8%) 2020年2月期第1四半期 91百万円 (△51.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第1四半期	2.98	2.97
2020年2月期第1四半期	9.53	9.49

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第1四半期	9,359	5,287	55.8	454.87
2020年2月期	8,499	4,948	57.5	425.48

(参考) 自己資本 2021年2月期第1四半期 5,223百万円 2020年2月期 4,886百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2021年2月期	—	—	—	—	—
2021年2月期 (予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	9,000～10,500	△16.8～△2.9	300～800	△65.7～△8.6

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

現在、モバイル、インターネット業界は、非常に速いスピードで構造変化が進行しつつあり、短期的な業績動向については変動要素が多いため、当社では、年間ベースでの業績管理に重点をおいた経営管理を強化しています。これらを踏まえ、現在、当社グループの業績予想については、連結業績に関する年間業績の開示のみとしております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期1Q	11,483,500株	2020年2月期	11,483,500株
② 期末自己株式数	2021年2月期1Q	64株	2020年2月期	22株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期1Q	11,483,450株	2020年2月期1Q	11,169,423株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 経営成績に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
経営成績に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（自2020年3月1日 至2020年5月31日）における日本経済は、内外のコロナ禍の影響等により、1月～3月期のGDPが前期比0.6%減、年率換算2.2%減と2四半期連続のマイナス成長となるなか、直近の日銀短観（企業短期経済観測調査）においても、景況感はリーマン・ショック以来の悪化となっており、先行きは厳しさを増しております。

一方で、デジタルトランスフォーメーション（DX）の必要性が改めて認識されており、FinTechやEdTech、HealthTechなどのX-Techサービスや、あらゆる機器のデジタル化やネットワーク化、即ちIoT化への取り組みは今後さらに本格化していくものとみられます。また、BCP（Business Continuity Plan）の観点から、生産性向上や自動化をサポートするAI（Artificial Intelligence）やRPA（Robotic Process Automation）等の活用も加速していくものと思われま

す。足下の経済が悪化するなか、DXソリューション事業においては、デバイス事業の第1四半期当初に中国・深圳工場がコロナ禍により約一か月の操業停止状態に陥り、製品の供給に多大な影響を受けるところからスタートしました。現時点においては通常操業状態にまで回復し、旺盛なIoT需要に応えさまざまな新デバイスの受注活動を展開しています。X-Techサービス事業については、チャットボットや電子マネー決済などのビジネス系サービスにおいて、一部コロナ禍の影響から法人でのサービス導入が停滞するなどの悪影響が出ましたが、在宅時間の増加にともない家庭向け知育アプリなどのデジタルコンテンツの利用が増加するなどの事象もあり、トータルとしては現行のサービス事業は順調に拡大しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,815,852千円（前年同四半期比11.9%減）、営業利益は63,303千円（前年同四半期比49.2%減）となりました。また、乱高下する為替動向を受け、中国深圳子会社を中心に30,723千円の為替差損が発生したことから、経常利益は31,061千円（前年同四半期比76.2%減）、純利益は34,211千円（前年同四半期比67.9%減）となりました。

なお、当社グループは、DXの進展を睨み、さらなる成長加速と事業拡大に向けて、2020年9月1日付で新たに持株会社体制へ移行することを決定しており、5月27日開催の株主総会で決議されております。

セグメント別の事業動向については以下の通りです。

## &lt;DXソリューション事業&gt;

当第1四半期連結累計期間におけるDXソリューション事業の売上高は1,456,735千円（前年同四半期比13.8%減）、セグメント利益は114,921千円（前年同四半期比34.0%減）となりました。

デバイスソリューション事業においては、期初に新型コロナウイルス感染症の拡大により、中国・深圳工場の稼働が約一か月間停滞し、第1四半期としては、開発・製造に大きな打撃を受け減収となりました。現時点では通常操業時と同等の状況に復旧しており、PLEN Robotics株式会社が販売するAIアシスタント「PLEN Cube」やMAMORIO株式会社の紛失防止デバイス、InstaChord株式会社の電子楽器「InstaChord(インスタコード)」、マイネム株式会社の笑顔を検知して除菌液を噴霧する装置「emmyWash」などを始め、新たなIoT製品の受注活動を積極的に展開しております。また、小ロット、多品種の生産体制をさらに強化すべく、深圳で金型成型工場を新設、金型内製化に着手しました。

サービスソリューション事業においては、収益性向上に向けた、技術力強化と開発品質の向上を引き続き推進しております。コロナ禍を受けて業種によっては経済的な影響からサービス開発を手控える等の動きもありますが、一方で、よりDXを推進する動きもあり、大手企業、ベンチャー企業双方を見据えたサービス開発の受注に積極的に取り組んでいます。

## &lt;X-Techサービス事業&gt;

当第1四半期連結累計期間におけるX-Techサービス事業の売上高は382,409千円（前年同四半期比0.4%減）、セグメント利益は8,254千円（前年同四半期比72.4%減）となりました。

X-Techサービス事業においては、前年同期に従来プロダクトの大ロライセンス案件の計上があった関係上、売上高は横ばいで減益となりましたが、現行サービスにおいては、コンテンツ系、ソリューション系ともに順調に推移しました。コンテンツ系サービスにおいては、コロナ禍のなか在宅時間の増加にともない家庭向け知育アプリの利用が拡大し、未就学児や小学校の低学年を対象とした知育アプリが好調に推移しました。また、「GIGAスクール構想」を見据えた教育出版社等との連携によるデジタルプロデュース事業においては、DX化の流れを受け順調に拡大しております。ビジネス系サービスにおいては、コロナ禍により一部の法人導入において遅延が生じる等の影響があったものの、ビジネスコミュニケーションサービス、電子マネー決済サービスとともに総じて採用企業は拡大傾向にあります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,459,020	4,637,375
受取手形及び売掛金	1,228,912	729,896
商品	13,063	4,091
仕掛品	279,248	349,805
原材料	178,815	46,199
前渡金	797,815	1,082,828
短期貸付金	615	448
その他	244,266	252,357
貸倒引当金	△5,475	△3,373
流動資産合計	7,196,283	7,099,629
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	141,631	136,703
車両運搬具(純額)	4,311	3,923
器具備品(純額)	56,489	51,807
建設仮勘定	2,544	2,759
有形固定資産合計	204,976	195,194
無形固定資産		
ソフトウェア	120,510	166,306
ソフトウェア仮勘定	170,976	201,327
のれん	106,988	98,313
その他	6,311	6,006
無形固定資産合計	404,786	471,954
投資その他の資産		
投資有価証券	411,067	1,297,061
関係会社出資金	27,902	27,176
繰延税金資産	28,001	35,110
差入保証金	229,914	238,553
その他	33,460	31,954
貸倒引当金	△37,131	△37,131
投資その他の資産合計	693,213	1,592,725
固定資産合計	1,302,977	2,259,873
資産合計	8,499,260	9,359,503

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	807,144	548,244
短期借入金	151,833	1,647,374
1年内返済予定の長期借入金	305,992	187,242
未払法人税等	211,472	24,740
前受金	1,181,125	867,098
賞与引当金	201,718	58,746
工事損失引当金	—	319
製品保証引当金	800	427
その他	410,121	367,603
流動負債合計	3,270,207	3,701,795
固定負債		
長期借入金	185,262	140,014
繰延税金負債	57,832	192,499
資産除去債務	32,954	33,077
その他	4,395	4,297
固定負債合計	280,444	369,888
負債合計	3,550,651	4,071,683
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,376,544	2,376,544
資本剰余金	1,440,163	1,440,163
利益剰余金	1,006,140	1,005,901
自己株式	△21	△45
株主資本合計	4,822,827	4,822,563
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	64,548	414,483
繰延ヘッジ損益	495	△3,173
為替換算調整勘定	△1,844	△10,406
その他の包括利益累計額合計	63,200	400,904
新株予約権	17,329	19,584
非支配株主持分	45,252	44,767
純資産合計	4,948,609	5,287,820
負債純資産合計	8,499,260	9,359,503

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
売上高	2,061,622	1,815,852
売上原価	1,511,617	1,269,289
売上総利益	550,005	546,563
販売費及び一般管理費	425,277	483,259
営業利益	124,727	63,303
営業外収益		
受取利息	213	1,153
その他	10,520	1,932
営業外収益合計	10,734	3,085
営業外費用		
為替差損	—	30,723
その他	4,773	4,603
営業外費用合計	4,773	35,327
経常利益	130,688	31,061
特別利益		
新株予約権戻入益	69	—
特別利益合計	69	—
税金等調整前四半期純利益	130,758	31,061
法人税、住民税及び事業税	22,739	19,479
法人税等調整額	△31	△22,708
法人税等合計	22,707	△3,228
四半期純利益	108,050	34,290
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,582	78
親会社株主に帰属する四半期純利益	106,467	34,211

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
四半期純利益	108,050	34,290
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,219	349,934
繰延ヘッジ損益	△2,294	△3,669
為替換算調整勘定	△315	△8,562
その他の包括利益合計	△16,829	337,703
四半期包括利益	91,221	371,993
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,654	372,518
非支配株主に係る四半期包括利益	1,566	△525



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	DXソリューション 事業	X-Techサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	1,677,577	384,044	2,061,622	—	2,061,622
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	13,270	—	13,270	△13,270	—
計	1,690,847	384,044	2,074,892	△13,270	2,061,622
セグメント利益	174,064	29,929	203,994	△79,267	124,727

(注) 1. セグメント利益の調整額△79,267千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△69,367千円、のれんの償却額△8,674千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	DXソリューション 事業	X-Techサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	1,433,442	382,409	1,815,852	—	1,815,852
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	23,292	—	23,292	△23,292	—
計	1,456,735	382,409	1,839,144	△23,292	1,815,852
セグメント利益	114,921	8,254	123,176	△59,872	63,303

(注) 1. セグメント利益の調整額△59,872千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△48,632千円、のれんの償却額△8,674千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。